

適正利用・エコツーリズムワーキンググループの経過報告・今後の予定

1. 令和4年度適正利用・エコツーリズムワーキンググループの開催概要

- ・第1回会議 令和4年8月26日（金）オンライン会議

2. 議事内容

本 WG が評価主体であるモニタリング項目に基づいて、第2期長期モニタリング計画の内容を議論した。主な意見・指摘事項は以下のとおり。

■第2期長期モニタリング計画について

①評価項目 F

- ・Fの評価基準「遺産登録時の状態又は設定した水準と比較」は、「設定した水準」の意味するところが不明であることや、継続的なモニタリングにより変化を確認することが重要であることを踏まえた修正を実施。
 - 「遺産登録時または登録後に策定した各種計画や戦略等で設定した状態との比較、変化の確認」に修正
- ・No.21「登山者による高山植生への影響調査」の評価指標やモニタリング手法を具体的に明示。
 - 評価指標：植被率や種組成、植生景観の変化
 - モニタリング手法：モニタリングサイトを設定し、植被率や出現種の記録、および定点における植生景観の写真撮影

②評価項目 G

- ・Gの評価基準「利用圧・管理努力・環境影響の関係性、相互作用に着目して、一体的・総合的に評価」を、より客観的に評価できるように具体的に明示。
 - 「管理努力の妥当性や、維持または改善のための努力を評価」に修正

■科学委員会での確認事項

- ・評価項目 F の No.14「ヒグマによる人為的活動への被害状況」に関して次の点を確認したい。
 - ・合同で評価を行うヒグマ WG との評価の分担について。
 - ・評価基準「人身被害を起こさないこと」はリスクマネジメントの分野であるため、遺産価値の評価基準としては「ヒグマによる人身被害の拡大防止のための駆除を拡大しないこと」等に修正してはどうか。
 - ・同様に、評価指標「ヒグマによる人身被害の発生件数」は、「観光客による過度な接近が原因の駆除件数」等に修正してはどうか。
 - ・産業的な視点は入れず、観光利用による圧力を評価する内容に整理すべき。

3. 令和4年度適正利用・エコツーリズム WG に関する今後の予定

◆第2回 WG

令和4年10月27日

◆第3回 WG

令和5年1～2月頃